

対比の説明文 一（五百字） 三十本

一日一本。読み終えたら、本文のすぐあとの課題欄に書きこもつ。

- 第一回 犬と猫
- 第二回 給食と弁当
- 第三回 紙の本とタブレット
- 第四回 電車とバス
- 第五回 RPGとアクションゲーム
- 第六回 サッカーと野球
- 第七回 鉛筆とシャープペン
- 第八回 朝型と夜型
- 第九回 YouTubeとテレビ
- 第十回 ゲーム実況と自分でプレイ
- 第十一回 縄文と弥生
- 第十二回 日本海側と太平洋側の気候
- 第十三回 完全変態と不完全変態
- 第十四回 促成栽培と抑制栽培
- 第十五回 衆議院と参議院
- 第十六回 輸入と輸出
- 第十七回 酸性とアルカリ性
- 第十八回 織田信長と豊臣秀吉
- 第十九回 天平文化と国風文化
- 第二十回 渡り鳥と留鳥
- 第二十一回 和食と洋食
- 第二十二回 漢字とひらがな
- 第二十三回 海の魚と川の魚
- 第二十四回 世間と社会
- 第二十五回 構築主義と本質主義
- 第二十六回 人と人
- 第二十七回 消費と浪費
- 第二十八回 贈与と購入
- 第二十九回 直線の時間と円環の時間
- 第三十回 文系と理系

第一回 犬と猫

犬と猫は、どちらも人といっしょにくらしてきた動物だ。ペットとして飼われている数も、この二つがとくに多い。

犬は、毎日散歩に連れていく必要がある。外を歩き、おいをかぎ、走ることが、犬には欠かせない。トイレも、散歩のときに外ですることが多い。犬はもともと、群れで生きる動物でもある。だから、飼い主をリーダーだと思つてついていく。名前をよばれると来たり、「おすわり」などの命令を聞いたりする。留守番が長いときびしがることも多い。

猫は、散歩をしなくてもよい。家の中で高いところにのぼったり、日なたでねむったりして過ごす。トイレは、家の中に置いた砂の上です。教えなくても、自分からそこでするようになる猫が多い。性格はどうか。猫はもとと一ぴきで生きる動物だ。だから、自分の気分で動き、よんでも来ないことがある。飼い主をリーダーというより、いつしよに住む仲間のように見ているといわれる。一ぴきで長い時間すごしても、あまり苦にしない。

群れで生きてきたか、一匹で生きてきたか。そのもとの生き方のちがいが、飼い方や性格のちがいになって表れている。

課題一

この文章を九十字以内で要約しよう。

[illegible]

課題二 比べている観点を二つ書こう。

①	
②	

第二回 給食と弁当

学校の昼ごはんには、給食と弁当がある。多くの小学校では給食が出るが、遠足の日や、給食のない学校では弁当を持っていく。

給食は、学校の調理室や給食センターで、調理員さんが作る。一度に何百人分も作るの、大きなべや機械を使い、朝早くから何人もで作業する。作っている人の顔を、食べる子どもが知らないことも多い。献立は、栄養士さんが考える。一か月分が前もって決まっていて、表にして配られる。野菜や魚、牛乳などがかたよらないように組み合わせであり、季節の食べ物や、地域でとれたものを入れることもある。だれが食べても同じ献立だ。

これに対して、弁当は、家の人が、その子ひとりのために作る。台所で、家にあるなべやフライパンを使い、前の晩の残りを入れたり、朝に卵を焼いたりする。作る人の顔がわかつてるのが弁当だ。献立はどうか。家の人が、その日に決める。本人の好きなおかずを入れてもらえこともあるし、家にあるもので決まることもある。アレルギーのある食べ物、はじめから入れないこともできる。

大ぜいのために作るものと、ひとりのために作るもの。作る相手のちがいが、献立の決まり方のちがいにつながっている。

課題一

この文章を百字以内で要約しよう。

[illegible]

課題二 比べている観点を二つ書こう。

①

②

第四回 電車とバス

町の中を移動するとき、電車に乗ることもあれば、バスに乗ることもある。どちらも決まった道を通り、決まった場所に止まる乗り物だ。

電車は、線路の上だけを走る。線路は電車のためだけに作られていて、ほかの車が入ってくることはない。踏切では、車や人のほうが電車を待つ。一度に何百人も運べるのは、長い車両をつないで走れるからだ。時間を見ると、ほかの車にじゃまされないの、時刻表どおりに着くことが多い。何分に出て何分に着くかが、前もってわかる。ただし、事故や強い風があると、長い区間でまとめて止まってしまう。

バスの場合は、道路を走る。道路は自動車や自転車、歩く人もいっしょに使うので、信号で止まつたり、ほかの車の列にならんだりする。そのかわり、線路のない町や、山の中の集落にも行くことができる。一台に乗れる人数は、電車よりずっと少ない。時間はどうか。道路の混み具合で、着く時間が変わる。朝や夕方の混む時間には、時刻表より何分もおくれることがある。そのかわり、道が一か所通れなくなつても、別の道を回つて走ることができる。

自分だけの線路を走るか、みんなと同じ道路を走るか。走る場所のちがいが、ほかのちがいを生んでいる。

課題一

この文章を百字以内で要約しよう。

[illegible]

課題二 比べている観点を二つ書こう。

①	
②	

第九回 YouTubeとテレビ

動画を見ると、YouTubeを開く人もいれば、テレビをつける人もいる。どちらも画面で映像を見るものだ。

YouTubeは配信なので、動画はいつでも見られる。好きな時間に、好きなところから見ることができ、途中で止めて、あとで続きを見ることもできる。何年も前の動画も、残っていればいつでも見られる。作る人を見ると、だれでも動画を作って出すことができる。ふつうの人が一人で、スマートフォンでさつえいして編集した動画も多い。動画の数は毎日ふえ続けていて、一人ひとりがちがう動画を見ている。

一方、テレビは放送なので、番組は決まった時間に流れる。その時間にテレビの前にいないと見られず、見たい番組が重なることもある。録画すればあとで見られるが、前もって予約しておく必要がある。作る人はどうか。テレビ局で多くの人が集まって番組を作る。出る人、カメラを回す人、編集する人と、仕事に分かれていて、一つの番組に何十人もかわる。番組の数は限られていて、同じ番組を多くの人が同じ時間に見ている。

つまり、配信と放送というしくみのちがいが、ほかのちがいのものになっているのだ。

課題一

この文章を百字以内で要約しよう。

[illegible]

課題二 比べている観点を二つ書こう。

①

②

第二十六回 人とAI

△（人工知能）とは、コンピューターに、人が考えるような働きをさせるしくみだ。文章を書いたり、質問に答えたりできる。人と△は、どちらも「考える」ように見える。

人が得意なのは、目的や意味を決めることだ。「これは何のためか」を考え、何をしたいのかを自分で決める。読んだ文章の意味を、自分の経験と結びつけて理解することもできる。まちがい方はどうか。人は、ねむかったり、あわてたり、思いこんだりしてまちがえる。計算をとばしたり、字を読みちがえたりする。しかし、まちがえたあとで「何かおかしい」と気づき、自分で直すことができる。

△では、話がちがってくる。△が得意なのは、速さと記憶だ。何万ページもの文章を一瞬で読み、計算を速く正確に行い、一度覚えたことは忘れない。ただし、何のためにするのかは自分では決めず、人が与えた目的に従って働く。次に、△は、つかれることがなく、同じ問題には同じ答えを出す。しかし、学んだ材料にまちがいがあると、そのまま自信をもって答えてしまい、正しいかどうかを自分で確かめることはむずかしい。

人は、何のためにするのかを決める。Aは、決められたことを速く正確にこなす。

課題一

この文章を百字以内で要約しよう。

[illegible]

課題二 比べている観点を二つ書こう。

①

②

